

令和 2 年 7 月 3 日現在

機関番号：82602

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K08898

研究課題名(和文) QOL値測定の精緻化とそれに基づく意思決定のあり方に関する研究

研究課題名(英文) Study on measurement of HRQoL data and decision making

研究代表者

白岩 健 (Shirroiwa, Takeru)

国立保健医療科学院・その他部局等・主任研究官

研究者番号：20583090

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：QOL値測定の精緻化とそれに基づく意思決定のあり方を検討するために、小児用のQOL尺度(選好に基づく尺度)であるEQ-5D-Yの開発を進めてきた。EQ-5D-YはEuroQolにより開発された小児用尺度であり、8歳から15歳までが対象となる。日本においては、小児において(QALYを計算に活用できる)QOL値が測定可能な選好に基づく尺度は存在しない。そこで、日本語版への翻訳、計量心理学特性の検討、回答をQOL値に換算するためのvalue setの開発等を実施した。ただし、成人と比較して、EQ-5D-Yのスコアは大きいことから意思決定に活用するにはさらなる検討が必要である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究においては、世界ではじめてEQ-5D-Yのvalue setをEuroQolグループのプロトコルに基づき作成した。現在のところ我が国においては使用が可能である小児用の選好に基づく尺度が存在しなかったが、EQ-5D-Yの開発により、成人用尺度の使用が困難な小児においても医療経済評価等に活用できるQOL値の測定が可能になった。今後は尺度を活用した測定値が蓄積して行くにつれて、小児におけるQOL値の特性等が明らかになることが期待される。

研究成果の概要(英文)：The objective of this study is to develop new preference-based measures and improve the measurement methods of QOL scores. I developed a preference-based measure for children and adolescents i.e. EQ-5D-Y, which was developed by EuroQol group. In Japan, there were no preference-based measures which can measure children and adolescents' quality of life. Therefore, we performed in this study the translation of the instrument, confirmed psychometric properties and constructed value sets of EQ-5D-Y to convert responses to QOL scores. As the scores by EQ-5D-Y tends to be higher than those measured by adult EQ-5D, we need a further consideration on how to use EQ-5D-Y score for decision making.

研究分野：医療経済評価

キーワード：健康関連QOL 費用効果分析 QALY 医療経済評価 医療技術評価

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

我が国においては、費用対効果評価の意思決定等への活用が諸外国より遅れたこともあり、QALY の計算に活用できる QOL 値の各疾患における集積や QOL 値を測定するための選好に基づく尺度の開発が諸外国と比べて遅れている。

2. 研究の目的

医療経済評価においては、医療技術の費用と効果を推計しその比(増分費用効果比)を算出することが一般的であるが、効果の単位としては質調整生存年(Quality-adjusted life year: QALY)を用いることが一般的である。この QALY を計算するためには、生存期間に QOL(Quality-of-life)値を乗じるが、QOL 値の測定方法あるいは測定するための尺度については種々の課題が存在することが指摘されている。そこで本研究においては QOL 値測定に関する諸問題について、いくつかの課題を設定し、QOL 値測定の精緻化とそれに基づく意思決定のあり方の検討を行う。

3. 研究の方法

本研究においては、QOL 値測定の精緻化とそれに基づく意思決定のあり方を検討するために、小児用の QOL 尺度(選好に基づく尺度)である EQ-5D-Y の開発を進めた。EQ-5D-Y は EuroQoI により開発された小児用尺度であり、8 歳から 15 歳までが対象となる。開発元の EuroQoI グループ等と連絡を取り、日本語版 EQ-5D-Y の開発許可を得た。日本語版 EQ-5D-Y は EuroQoI 本部によりすでに開発されていたが、難しい漢字が使用されるなど日本における小児の現状が反映されていないものであったので、我が国における小児の使用に耐えうるものに修正した。次に尺度の妥当性・信頼性等の計量心理学的特性を検討するために、小児とその親に対する会場調査を行った結果得られたデータを解析した。計量心理学的妥当性の検討が完了後に、回答を QOL 値に換算するための value set を作成するために、日本全国 5 ヶ所 1000 名を対象として、EQ-5D-Y で記述された健康状態に対して DCE 法、TTO 法で測定したデータの解析を行い、EQ-5D-Y の value set を作成した。

4. 研究成果

日本においては、小児において(QALY を計算に活用できる)QOL 値が測定可能な選好に基づく尺度は存在しない。そこで、日本語版への翻訳、計量心理学特性の検討(信頼性、妥当性など)、回答を QOL 値に換算するための value set の開発等を実施した。このことにより我が国において世界ではじめて EQ-5D-Y の換算表が作成された。ただし、成人と比較して、EQ-5D-Y のスコアは大きいことから意思決定に活用する際にはさらなる検討が必要である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 T Shirowa, T Fukuda , K Shimosuma.	4. 巻 28
2. 論文標題 Psychometric Properties of the Japanese Version of the EQ-5D-Y by Self-Report and Proxy-Report: Reliability and Construct Validity	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Qual Life Res	6. 最初と最後の頁 3093-3105
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） doi: 10.1007/s11136-019-02238-1.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
---------------------------	-----------------------	----